

Requirements for successful self-help groups in mental health



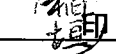
メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Tanimoto, Chie メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/28516

平成 22 年 2 月 16 日

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2105号
学籍番号 0627022015
氏 名 谷本 千恵

論文審査員

主 査 (教授) 泉 キヨ子 
副 査 (教授) 長谷川 雅美 
副 査 (教授) 稲垣 美智子 

論文題名 Requirements for successful Self-help groups in mental health

(精神障がい者セルフヘルプグループの活動発展条件に関する研究)

論文審査結果

【論文内容要旨】

精神障がい者のセルフヘルプグループの活動は北米など先進諸国で活発であり、心理社会的効果が報告されている。しかしわが国においては精神障がい者で運営しているセルフヘルプグループは全国的に存在しているが、その活動の脆弱さが指摘されており、今後セルフヘルプグループが順調に継続・発展するための条件整備が望まれる。

本研究は、まず我が国の精神障がい者セルフヘルプグループの実態を知るために全国調査をし、グループ活動の実態と課題を明らかにした。次に、その中で調査協力の同意が得られた活動が発展しているグループリーダーから聞き取り調査をした。その結果、活動発展のために必要な「専門職の必要に応じた継続的支援」、「リーダーシップ能力」、「メンバーの参加意欲」、「グループ運営技術」、「ソーシャルサポート」の5つの要件が抽出された。この要件の特異性について他疾患のセルフヘルプグループと比較し、精神障がい者特有のセルフヘルプグループの継続運営・発展の在り方を探求することが今後の課題である。

【審査結果要旨】

一般的に精神障がい者のセルフヘルプグループについては、匿名性や専門職への反発などから調査が難しく、精神障がい者のセルフヘルプグループの活動発展条件を調査した先行研究は、国内外ともに見当たらない。本研究で我が国の実態を調査し活動要件を明らかにしたことは大変意義があると考えられる。セルフヘルプグループへの支援についてはこれまで専門職側の視点からのみ語られていたが、本研究結果より、当事者の立場からみたグループの継続・発展に関する要件が明らかとなり、今後精神障がい者のセルフヘルプグループを専門職が支援する上で大きな示唆を得たと考えられる。

以上のことから、本研究は今後の精神障害者セルフヘルプグループの活動発展につなげる上で、新たな知見を得たオリジナリティに富んだ有用で実践的な論文であり、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。